

令和6年度 学校経営計画

I 学校教育目標

夢をもち、未来を拓く子ども
～確かな学力と豊かな心とたくましい体をもつ子の育成～

【合言葉】

「きたえ ふれあう 富沢っ子」

【目指す学校像】

- 子どもにとって、一人一人が大切にされ、学ぶ喜びが実感できる学校
 - ・自分の思いや願いを達成することのできる学校
 - ・自分や仲間の成長が分かり、自己有用感・自己肯定感を深めることのできる学校
 - ・仲間とともに学び、人や社会とのつながりが実感できる学校
- 家庭や地域にとって、安全・安心で子どもの育ちが見える学校
 - ・子どもの学ぶ姿や地域とともにある学校の姿を発信する学校
 - ・地域の人材や自然などの教育環境を活用し、地域に学ぶ学校
 - ・地域、関係機関と連携し、子どもの安全を守る学校
- 教職員にとって、働きやすさと働きがいを実感できる学校
 - ・深い教育的愛情をもって子どもの成長にかかわり、喜び合える学校
 - ・同僚性を培い、実践的指導力やチーム貢献力を高めることのできる学校
 - ・教育公務員としての信頼と期待に応え、力を発揮することのできる学校

【目指す子ども像】

- 《知》仲間とともに、意欲的・協働的に学ぶ子ども
- 《徳》仲間とともに、前向きに認め高め合う子ども
- 《体》仲間とともに、粘り強く心身を鍛える子ども

【目指す教員像】

- 強い使命感・倫理観と子どもへの深い教育的愛情を常に持ち続ける教員… [揺るぎない信頼と愛情]
- 実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組み学び続ける教員… [創造性に富む協調と協働]
- 家庭・地域と連携・協働しながら課題解決に取り組む教員… [歴史と伝統の継承と発展]

II 中期ビジョン（令和5年度～令和7年度）

1 中期目標

今、世の中は、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0の到来、新型コロナウイルス感染症の世界的大流行、ロシア・ウクライナ情勢やパレスチナ・イスラエル戦争の長期化に起因するエネルギー、生活商品、サービスへの影響、自然災害（地震・台風・猛暑）等など、先行き不透明で予測困難な時代の中にある。

特に、新型コロナウイルス感染症のパンデミック下にあった約3年間において、学校は、学びの保障と感染予防・拡大防止を両輪に多大な努力を払ってきた。この間、GIGAスクール構想の前進による一人一台端末によって授業改善や業務改善が飛躍的に進んだが、一方で学校閉鎖や教育活動の制限が深刻な子どもの学習意欲の低下、心身の不調等をもたらした。

このような中で学校は、一人一人の子どもが、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となるための教育の実現が求められている。具体的には、主体的に学習に取り組む態度や基礎的な知識及び技能、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力といった確かな学力を育成すること、また、美しいものや自然に感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にしようとする心、他人を思いやる心や社会貢献の精神、自立心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異質なものへの寛容などといった豊かな心を育むこと、さらには、自ら進んで運動に親しみ、心身を鍛えることができることや健康に関する知識を身に付け、自主的に健康な生活を実践することができること、安全に関する情報を正しく判断し、安全のための行動に結びつけることができるようになることなどといった、健やかな体を持つことができるようになることが大切である。

昭和50年代、富沢小学校は児童数の減少による廃校の危機という深刻な問題に直面していた。富沢地区住民の「地域の活性化に資するために学校を残したい」という熱意が行政を動かし、旭川市内全域からの通学を認める特認校として存続することになった。開校125年目、特認校39年目。以来、富沢地区住民は子どもたちを「ふるさと家族」として受け入れ、学校行事等にも協力を惜しんでこなかった。今年度の児童数は27名だが、地元の子どもの数は3名。保護者は富沢地区の豊かな自然を生かした特色ある教育活動と少人数によるきめ細かな指導を期待している。本校は、教職員、保護者・地域住民、子どもたちが一体となり教育活動が行われている学校である。

私たち教職員は、「揺るぎない信頼と愛情」「創造性に富む協調と協働」「歴史と伝統の継承と発展」を基盤に、常に子どもに寄り添い、共に活動し、優しさと厳しさの調和した活力ある教育を行う。また、「チーム富沢小」として組織された教職員が、英知を結集し、本校の「継承・深化・発展」を目指し、人や自然と積極的にかかわり、合言葉「きたえ ふれあう 富沢っ子」の下、「生きる力」を育む特色ある教育活動に努めなければならない。

以上のことから義務教育9年間の発達段階を踏まえた系統性・連続性のある教育課程の編成にあたり、中期目標「義務教育9年間で目指す子ども像（15歳の姿）」を次のとおり設定することとする。

【義務教育 9 年間で目指す子ども像（15歳の姿）】

		知	徳	体
		仲間とともに、 意欲的・協働的に学ぶ子ども	仲間とともに、 前向きに認め高め合う子ども	仲間とともに、 粘り強く心身を鍛える子ども
育成を目指す資質・能力	(ア) 知識及び技能の習得	○教科等の基礎的・基本的な学習内容を理解し、習得することができる。	○道徳的な価値について理解し、習得することができる。	○健康・安全に関する基本的事項を理解し、習得することができる。 ○基本的な運動の技能を身に付けることができる。
	(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	○教科等の見方・考え方を生かして思考し、解決する力を身に付けることができる。 ○情報を適切に活用し、根拠に基づき発信する力を身に付けることができる。	○多様な価値を認め、他者と対話し、議論する力を身に付けることができる。 ○自己を見つめ、多面的・多角的に考える力を身に付けることができる。	○運動や健康・安全に関する課題を見つけ、適切に対応し、解決する力を身に付けることができる。
	(ウ) 学びに向かう力、人間性等の涵養	○未来の創り手として自覚し、夢や目標に向かって最後までやり抜く態度を身に付けることができる。 ○学びを日常に生かそうとすることができる。	○多様な価値を受容・尊重し、信頼と友情を大切にすることができる。 ○よりよい人間関係を築き、自分のよさを発揮することができる。	○健康・安全な生活を営む実践的態度を身に付けることができる。 ○運動に親しみを身に付けることができる。

Ⅲ 本年度の学校経営

1 年度の重点教育目標

社会や国際情勢の変化、科学技術等の進歩の加速により、私たちは、今、「VUCA」(Volatility: 変動性、Uncertainty: 不確実性、Complexity: 複雑性、Ambiguity: 曖昧性)が急速に進展する世界に直面している。このような情勢のなか、OECDが平成30年に提唱した「OECD Learning Framework 2030 (2030年に向けた学習枠組み)」には、これからの社会に必要な資質・能力(Competency)の内容として、Well-beingの重要性について記されている。Well-beingは、これからの時代に必要な資質・能力(Competency)の構成要素として、「新たな価値を創造する力」(Creating new Values)、「対立やジレンマを克服する力」(Coping with Tensions & Dilemmas)、「責任ある行動をとる力」(Taking Responsibilities)の3点を挙げている。私たち教職員には、学習者であるすべての子どもを一人の人間として全人的に成長を保障していくことが求められている。さらに、学校教育には、子どもたちに対して、Well-being(個人的・社会的によるよく幸せに生きること)を追求し、子どもたち一人一人が包摂的で持続的な未来を築くことに貢献し、恩恵を受けることができる知識やスキル、態度、価値を育成していくという重要な責務が求められている。また、「2030年に向けた学習枠組み」には、学習者であるすべての子どもたちが、エージェンシー(Agency: 主体性)の発揮を可能にするために、①一人一人にカスタマイズされた学習環境、②読解力や数学力等の基礎力の定着の二つの要素の重要性が記されている。

令和2年度からスタートした小学校学習指導要領は、教育課程を地域社会と共有しながら、①「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)、②「何を学ぶか」(教科等を学ぶ意義と、教科間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成)、③「どのように学ぶか」(各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実)、④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」(子供の発達を踏まえた指導)、⑤「何が身に付いたか」(学習評価の充実)、⑥「実施するために何が必要か」(学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策)という観点から、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の学力の3要素を総合的にバランスよく編成し、児童一人一人に確実に「生きる力」を身につけさせることが求められている。

一方、日本社会及び学校現場に目を向けると、社会全体が長期間にわたる新型コロナウイルス感染症や気候変動による夏の猛暑等によって、安全・安心を最優先に考えた学校運営が求められている。

本校は、旭川市の住宅地としてめざましく発展した神居町の一地区に位置し旭川駅から約8分、伊野沢峠で隔てられた静かな農村地帯にある。宿泊施設ふれあいの家、夏のキャンプで賑わうカムイの杜公園、夏冬の各種スポーツ大会(サッカー、ラグビー、クロスカントリースキー)が行われる富沢多目的運動広場が隣接する。恵まれた自然環境・教育環境のなかで、外部講師を招聘し、春の野山、夏の野山、秋の野山、冬の野山等の自然体験学習を中心とする特色ある教育活動が長年にわたり行われてきている。

子どもたちにとって学校は、単に学ぶ場だけではなく、安全・安心の場として、他者と関わりながら育つ大切な居場所の一つである。近年、本校は、他校で不登校等を経験した子どもが転入してくるというケースが増加している。不登校を経験してきた子どもは、学習の機会だけではなく、居場所としての学校の役割が損なわれた経験をもっている。また、何らかの困り感を持ち、学習や日常生活、対人関係等に配慮が必要な子どもも増加している。その割合は、令和4年度が44.4%、令和5年度が48.6%である。毎年、全国学力・学習状況調査の児童質問紙等で、自己肯定感・自己有用感の低さが課題になるが、本校もその傾向は同様である。このことから、本校は、困り感のある子どもや不登校を経験した子どもも含め、セーフティネットの場として、富沢小学校が子どものかけがえのない居場所の一つとなる働きかけを積極的に行わなければならないと考える。

本校は、複式や異学年による日常的な活動及び指導に加え、保護者・地域のあたたかな連携・協働を基盤に教育活動が行われている。子どもたちひとりひとりの安全・安心の居場所の実現を図り、子ども、教職員、保護者・地域住民のWell-beingを高め、実現する教育活動を着実に挙げる。

本年度の重点教育目標については、北海道が目指す教育の基本理念「自立と共生」（「自立」：自然豊かな北の大地で、世界を見つめ、自立の精神にあふれ、自らの夢に挑戦し、実現していく人を育む。「共生」：ふるさとへの誇りと愛着をもち、これからの社会に貢献し、共に支え合う人を育む）や上川管内教育推進の重点（「ふるさとを愛し、夢と志をもって、可能性に挑戦するために」）、旭川市学校教育基本計画の基本理念「ふるさと旭川保来へはばたく子どもを育成」等を踏まえた。さらに、新型コロナウイルス感染症等の感染対策と学びの保障を両輪とした心・安全な学校づくりを基盤に、未来の創り手となる子どもたちに必要な「資質・能力」を踏まえ、知徳体のバランスや本校の課題等をもとに設定した。これらの実現に向けては、組織的・協働的な教育活動の充実、関係機関等との連携、家庭・地域への発信力や連携・協働の強化、地域の人的・物的資源の積極的な活用が重要と考える。

本校児童の課題については、次のとおりである。

知については、全国学力・学習状況調査やチャレンジテスト等の結果・分析から、他者の話を集中して聞き、互いの考えや意見をもとに練り合い、自分の考えをまとめ、工夫しながら発表することに課題がみられる。学習内容の定着を確実に図るため、各教科等の見方・考え方や指導事項を明確にし、課題把握や振り返り、「学びのプラン」の提示などの授業改革を進める。また、①複式授業におけるリーダーの育成、ICTの活用や全ての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現による学習内容の定着、②児童の実態と課題を踏まえた学習規律（「富沢小スタンダード」）の定着など、学校全体で取り組む学びの環境づくり、③1日の家庭学習の時間やスマホ・タブレット・パソコンの使用時間、ゲームやテレビの時間、読書の時間などについて、望ましい生活習慣や学習習慣の定着のため、家庭や地域との連携・協働の強化を図る。

徳については、日頃から仲間との良好な人間関係を基盤にした学級指導や生徒指導を進めている。しかし、きまりを守り、楽しく学校生活を送っている児童が多い反面、他者との関係をうまく築けない児童や言動のアンバランスさを感じさせる児童も複数おり、家庭や関係機関との連携が引き続き必要である。児童が協力し合い、互いに認め合い、高め合う教育活動を意図的に設定するとともに、PTA等の機能を活用し、家庭・地域との連携・協働の強化を図る。

体については、新型コロナウイルス感染症の5類移行後を踏まえた基本的な感染対策や火災・地震等の危機対応について、「自らの命は、自ら守る」等の安全意識や防災意識等を育む指導を引き続き行う。また、新体力テスト等の結果から、本校児童は、富沢タイム等の時間を活用した体力づくりの取組によって一定の成果がみられるものの、意欲や運動能力・技能の個人差が大きい。児童一人一人の運動習慣等に関する意欲及び積極的に運動に親しむ態度を育み、体力・運動技能の向上のため、家庭や地域との連携・協働の強化を図る。

知徳体のそれぞれの課題解決にあたり、職員同士が組織的に意思疎通・共通理解を図り、家庭や地域、関係機関、中学校や幼稚園・保育所等の異校種と十分に連携・協働し、子どもたちの確かな成長を実感する教育活動を推進するため、特に、次の3点を重視する。

(1) 家庭・地域・関係機関等と連携・協働し、Withコロナ時代の新しい学校運営の実現

新型コロナウイルス感染症は、学校教育の様々な活動を振り返り、見直すきっかけになった。Withコロナにある今、効率的・効果的な学校運営の在り方を家庭、地域、関係機関等と連携・協働しながら、児童同士が心を通わせ、多様な価値等を認め合い、人格を尊重し合う風土の醸成を図り、人間としての成長を続ける学校を目指す。

(2) あたたかな人間関係の中で、夢・希望を育み、心と身体を躍動させる教育活動の実現

夢や希望は、主体的に新しいことや苦手なことに挑戦する原動力である。自分の学びや挑戦が他者や社会に認められることで、さらに、夢や希望をもって未来をたくましく生きることができるとともに、キャリア・パスポート等を積極的に活用し、自分自身のよさや得意なところなどを理解させ自己肯定感を高め、互いを認め合い、高め合う教育の充実を図る。また、すべての教育活動に異学年による学びの場を積極的に取り入れたり、「個別最適な学び」「協働的な学び」を適切に組み合わせるなど授業改革を図り、学ぶ喜びや意味を理解させる学校を目指す。

(3) 高い同僚性と協働性を基盤に学び続け高め合う教職員集団の実現

子どもたちが健やかに成長するためには、私たち教職員が「教育のプロ」としての確かな理念と誇り、強い使命感、高い専門性と倫理観をもって協働歩調で教育にあたることが肝要である。また、「改善から改革」を合言葉に、現在の授業観やスタイル等を大きく見直し、より良いものに、より優れたものに、より新しいものに変えていくことを意味する授業改善から授業改革への転換を図る。さらに、安全・安心を基盤に、子どもたちの健やかな学びの保障と不断の授業改革を行うため、教師自身が常に熱い情熱と学び続ける向上心、協働的な取組の姿勢をもち、高い同僚性が発揮される環境づくりが着実に推進される学校を目指す。

以上のことから、令和6年度の教育課程編成にあたり、「改善から改革へ」を明確にししながら、以下の3つのコンセプトと7つの具体的取組を行い、学校教育目標及び令和6年度重点教育目標の達成に迫ることとする。

◆改善から改革へ～3つのコンセプト

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 「改善から改革へ」を合言葉にし、重点教育目標の達成に迫る教育課程の編成を行うこと (2) 児童、教職員、保護者・地域のWell-beingを高める教育課程を編成すること (3) 年間授業時数1086時間以内をベースに創意と工夫のある指導計画を作成すること |
|---|

◆改善から改革へ～7つの具体的な取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 1人1台端末の「活用」から「利活用」（タブレット持ち帰り想定）への転換 (2) 危機場面を想定した教職員による訓練・研修及び児童による避難訓練の複数回実施 (3) 地域の人的・物的資源を積極的に活用した授業の継続 (4) 異学年グループを活用し、個の主体性と自走する共同的な学びの場面（まなびタイム）の拡大 (5) ①学びのプラン、②リフレクション、③根拠を基に自分の考えをまとめ発表する場面の拡大 (6) 学級担当及び効率的な教科担当の工夫による多角的・多面的な児童理解の実現 (7) 年休・病休等の「安心」行使の実現（効率的・効果的な自主教材等の準備） |
|--|

令和6年度 重点教育目標

人・社会・未来とつながるWell-being2024

～根拠と共有を基に 自分の考えを整え 意見表明できる子どもの育成～

知	仲間とともに、意欲的・協働的に学ぶ子ども
徳	仲間とともに、前向きに認め高め合う子ども
体	仲間とともに、粘り強く心身を鍛える子ども

□令和6年度 育成を目指す資質・能力

	知	徳	体
	仲間とともに、意欲的・協働的に学ぶ子ども	仲間とともに、前向きに認め高め合う子ども	仲間とともに、粘り強く心身を鍛える子ども
(ア) 知識及び技能の習得	○学習内容を理解し、習得することができる。	○物事は様々な見方ができることを理解し、習得することができる。	○健康・安全に過ごすために必要なことを理解し、習得することができる。 ○基本的な運動の体の動かし方を理解・習得、実践することができる。
(イ) 思考力・判断力・表現力等の育成	○課題を発見し、解決に向けて見通しと道筋を立てて考えることができる。 ○情報を集め、活用し、発信することができる。	○自分のことを知り、様々な角度から物事を考えることができる。 ○多様な価値観を認め、他者と対話・交流することができる。	○健康・安全・運動に関する課題を見付け、生活の中で解決することができる。
(ウ) 学びに向かう力、人間性等の涵養	○なりたい自分に向かって最後まで努力することができる。 ○日常生活の中で学んだことを生かそうとすることができる。	○いろいろな価値観を認め、他者を大切にすることができる。 ○相手のよさがわかり、集団の中で、自分のよさを発揮することができる。	○健康・安全に生活するために具体的に取り組むことができる。 ○運動に親しみ体力を向上させようとするすることができる。

□令和6年度 育成を目指す資質・能力の学年別の具体

《知》仲間とともに、意欲的・協働的に学ぶ子ども		
低学年	中学年	高学年
自分の考えがもてる子	考えをもって進んで学ぶ子	見通しをもって考える子
○約束や学び方を身に付け、学習を進めることができる。 ・自分の考えを発表することができる。 ・人の話をしっかり聞くことができる。 ・進んで発表することができる。	○解決方法を見つけ、交流しながら学習を進めることができる。 ・自分の考えと比べながら聞くことができる。 ・見通しをもち、工夫して表現することができる。 ・考えの根拠や理由を伝えることができる。	○他の考えや情報を整理し、課題解決し、学習を進めることができる。 ・自分の意見との違いや同じ所に気付くことができる。 ・自分や仲間のよさに気付き、お互いに高め合おうとすることができる。 ・わかりやすく工夫して表現することができる。
《徳》仲間とともに、前向きに認め高め合う子ども		
低学年	中学年	高学年
明るい気持ちで生活できる子	仲間と助け合える子	行動に責任がもてる子
○仲間に優しく接し、仲良く生活することができる。 ・進んで挨拶や返事をするすることができる。 ・仲間と仲良く過ごすことができる。 ・ルールがわかり、守ることができる。	○相手の気持ちを大切にし、力を合わせるができる。 ・仲間と協力しながら行動することができる。 ・明るい心で誰とでも仲良くすることができる。 ・ルールの意味がわかり、判断することができる。	○よさや違いを認め合い、高め合うことができる。 ・相手の様子や気持ちに気付き、思いやりのある行動をとることができる。 ・言葉づかいに気をつけることができる。 ・問題意識をもち、正しい判断をすることができる。
《体》仲間とともに、粘り強く心身を鍛える子ども		
低学年	中学年	高学年
自分からやろうとする子	最後まであきらめない子	粘り強く工夫して努力する子
○めあてをもち、いろいろな運動を楽しむことができる。 ・めあてをもち、進んで行うことができる。 ・最後までがんばることができる。 ・命を大切にすることができる。	○めあてをもち、仲間と協力して運動することができる。 ・めあてをもち、最後まで努力することができる。 ・基本的な運動習慣を身に付けることができる。 ・命を大切にすることができる。	○見通しをもち、工夫して運動することができる。 ・めあてをもち、体力づくり等に粘り強く取り組むことができる。 ・生活を振り返り、よりよい生活をしようとする努力することができる。 ・命を大切にすることができる。

□令和6年度 教職員の共通行動

令和5年度は、7件のいじめを認知（旭川市教育委員会の指定する困難ケース3件を含む）すべて令和5年度内に解消済みした。このことを受け、常に子どもに寄り添った生徒指導に努めるため、次の3点を教職員の共通行動として設定する。

- 1 子どもたちを笑顔で迎え 笑顔にさせ 家庭・地域に帰す。
- 2 自分や仲間の心や身体を傷つける言動は絶対に許さない。
- 3 高い感度をもち かすかな変化や声をキャッチする。

2 年度の重点経営方針

(1) 地域とともにある学校づくり

- ① 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）等の取組の推進
- ② 地域の人的・物的資源の積極的活用の推進
- ③ **望ましい基本的生活習慣の定着や家庭学習習慣の充実と共通理解にたった家庭との連携・協働**
- ④ 神居地区小中連携教育会議を活用した連携強化の推進
- ⑤ 学校だよりの発行やホームページの更新、マチコミメールの活用等による情報発信力の強化

評価基準 方法	評価	神居地区小中連携連携会議や学校運営協議会を踏まえた取組を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上
	評価	学校は、教育目標や教育の方針等を家庭や地域に伝えている。 【保護者アンケート】達成率3.6以上
	評価	学校は、保護者の願いに応えるとともに、学校の様子を家庭や地域に伝えている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上

(2) 全教職員の経営参画を図る組織マネジメント

- ① 目標や課題の共有、教職員の主体的な学校運営への参画、同僚性や協働性を重視した校務の推進
- ② **各部・分掌・全体での打合せを密にし、迅速な対応、情報共有、組織的・協働的な取組の推進**
- ③ 検証改善サイクルの実質化・迅速化の取組の推進

評価基準 方法	評価	年度の重点教育目標達成に向け、学年・分掌で協働して校務を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上
	評価	情報の共有化を図り、主体的に学校運営に参画している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	学校運営協議会や保護者アンケートの結果を踏まえ、積極的に学校改善を進めている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上

(3) 教育目標の具現化を目指すカリキュラム・マネジメント

- ① P D C A サイクルによる、組織的・計画的な教育活動の改善・充実
- ② 「社会に開かれた教育課程」の編成・実施・評価・改善による検証改善サイクルの強化
- ③ **「主体的・対話的で深い学び」を育む授業改革及び家庭学習の定着・充実などの取組の推進**

評価基準 方法	評価	P D C A サイクルによる組織的・計画的に教育活動の改善・充実を図っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	不断の授業改革及び家庭学習の定着・充実等の取組を行っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	学校は、家庭と連携しながら、学習規律や基本的な学習習慣の定着に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上

(4) 教師と児童との良好な信頼関係の構築及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級経営

- ① 年度の重点教育目標の具現化を図る学級経営の推進
- ② **複数の教員による多角的・多面的な児童理解を基に一人一人が思いや力を出し合える学級経営の推進**
- ③ 良好な信頼関係を育み、自己肯定感を高め、充実感と所属感を味わえる学級経営の充実

評価基準 方法	評価	年度の重点教育目標を踏まえた学級経営案を立案し、実践を行っている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上
	評価	学校の生活は楽しいですか。 【児童アンケート】達成率3.6以上

(5) キャリアステージに応じて求められる資質を高める研修活動

- ① 対話に基づく受講奨励や「北海道における教員育成指標」等を活用した資質能力の向上
- ② **「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた不断の授業改革の推進**
- ③ 外国語教育、ICTの活用、「特別の教科 道徳」、いじめ・不登校など今日的な教育課題に対応した研修の充実

評価基準 方法	評価	対話に基づく受講奨励に基づき、教員育成指標や本校の目指す教員像などで求められる教員の姿を目指して、資質能力の向上を図っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
------------	----	---

(6) 安全で潤いのある教育環境整備

- ①校舎内外の施設・設備の美化、整理整頓に努めるとともに、感染症対策など安心安全の推進
- ②言語環境の整備、机上等の整理整頓、ユニバーサルデザインに基づく統一感のある掲示物の工夫
- ③教室や廊下、グラウンドなど校舎内外の日常的な清掃・美化及び定期的な安全点検の推進

評価基準方法	評価 言語環境の整備、机上等の整理整頓、ユニバーサルデザインに基づく統一した掲示物の工夫、感染症対策につながる環境整備を十分に行っている。 【教職員アンケート】達成率4.0
	評価 安全点検が定期的に行われ、危険箇所・破損箇所などの対策が取られている。 【教職員アンケート】達成率4.0

(7) 組織で取り組む危機管理

- ①子どもや家庭、地域の信頼に応える教育公務員としての自覚の向上や服務規律の厳正な保持
- ②地域、家庭、関係機関と連携した危機管理の推進
- ③学校の実態や状況、課題に応じた危機管理体制の確立及び避難・防災訓練の実施
- ④危機場を想定した教職員による訓練・研修及び児童による避難訓等練の複数回実施

評価基準方法	評価 教育公務員としての立場を自覚し、服務規律を厳正に保持している。 【教職員アンケート】達成率4.0
	評価 学校の実態や状況、課題に応じた危機管理体制を確立し、各種避難・防災訓練を実施している。 【教職員アンケート】達成率4.0

(8) 適切で効率的な運用を図る学校事務

- ①諸帳簿及び文書管理の徹底
- ②効果的な予算執行と適切な事務処理及び定期的な監査の推進
- ③市教委との連携を図った事務処理の推進

評価基準方法	評価 効果的な予算執行や諸帳簿等及び文書管理が適切である。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
--------	---

(9) 学校の活性化を図る学校職員人事評価

- ①年度の重点教育目標及び教員育成指標との関連を図った自己目標の設定
- ②年度の重点教育目標及び教員育成指標との関連を図った自己目標達成のための具体的取組方法の設定
- ③服務規律の保持、対話に基づく受講奨励の確認

評価基準方法	評価 学校職員人事評価の具体的な目標及び目標達成のための取組方法等は、年度の重点目標との関連が図られている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
--------	--

(10) 働き方改革（富沢小学校アクション・プラン）の推進

- ①富沢小学校アクション・プランの行動計画が目指す目標及び具体的取組内容に基づく働き方改革の推進
- ②実感の伴った教職員の「働きやすさ」「働きがい」の実現とWell-beingの向上の推進
- ③ICTを活用した各種調査等の実施やスズキ校務支援システムの積極的活用による業務改善の推進
- ④教職員の労働時間に係る各種制度の積極的な活用の推進

評価基準方法	評価 富沢小学校アクション・プランの行動計画をもとにした具体的な効率的・効果的な働き方改革を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
--------	---

3 年度の重点指導方針

(1) 主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導（教務部・研修部・保体部・各学級）

- ①学習規律の徹底、学び方を身に付ける学習、家庭学習の充実
- ②基礎的知識・技能の確実な定着と単元全体を通じた「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践
- ③課題の提示とまとめの徹底、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に実現した授業の推進
- ④異学年グループを活用し、個の主体性の重視と共同的な学びの場面（まなびタイム）の拡大
- ⑤「学びのプラン」「リフレクション」「根拠と共有を基に自分の考えをまとめ発表する場面」の拡大

評価基準方法	評価 [知ウ] 学習規律の徹底が図られている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価 [知アイ] 子どもたちが自分の考えをもち、議論する対話的な学びがある授業を実現している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上
	評価 [知アイ] 学校は、子どもたちが自分の考えをもち、主体的に学ぶ教育活動に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上

(2) 豊かな心を育む道徳教育（生徒指導部・道徳推進教師・各学級）

- ① 道徳的实践力を育む「特別の教科 道徳」の指導の工夫
- ② **自分や仲間よさを実感でき、生き生きと豊かに表現・発信できる場の設定と活動の充実**
- ③ いじめのない学校づくりといじめ見逃しゼロの推進

評価基準方法	評価	〔徳アイ〕 問題解決的で自分事として考える「特別の教科 道徳」の授業が行われている。 【教職員アンケート】 達成率3.2以上
	評価	〔徳ウ〕 いじめアンケートで「いやな思いをしたことがある」と回答した児童の解消 【児童アンケート・聞き取り・解消】 達成率100%
	評価	〔徳ウ〕 いじめアンケートで「いじめは許されない」と回答 【児童アンケート】 達成率100%
	評価	〔徳イ〕 自分のよいところがわかりますか。 【児童アンケート】 達成率3.6以上

(3) 個と集団のよさを実感する特別活動（生徒指導部・各学級）

- ① 学級への所属感や仲間との協力性を高め、自己有用感をもたせる指導の工夫
- ② **よりよい生活を築くために自分たちでいじめの撲滅活動やきまりを作り、守る活動などの取組の充実**
- ③ 異学年による活動を拡大し、望ましい人間関係や所属感・有用感を醸成する学級活動や育てたい力を明確にした集団活動の充実

評価基準方法	評価	〔徳イウ〕 仲間と協力して取り組む特別活動の実践を工夫している。 【教職員アンケート】 達成率3.2以上
	評価	〔徳ウ〕 友だちや他の学年の人と活動することが楽しいですか。 【児童アンケート】 達成率3.2以上

(4) 地域の特色や今日的課題を踏まえた総合的な学習の時間（教務部・各学級）

- ① 課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のサイクルの中で、学び方や探求的なものの見方・考え方を働かせ、探求的な学習を行う指導の工夫・改善
- ② 育てたい資質・能力を明確にした指導計画及び主体的な学びを促す評価の工夫
- ③ **地域の人的・物的教育資源を積極的に活用し、学びの質の向上を育む特色ある単元の実践・検証・改善**

評価基準方法	評価	〔知イ〕 「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを通して、本校で設定している資質・能力が高まっている。 【教職員アンケート】 達成率3.2以上
	評価	〔知ウ〕 学校は、自然体験など、地域の特色を生かした教育活動に努めている。 【保護者アンケート】 達成率3.6以上

(5) 自己をよりよく導く生徒指導（生徒指導部・各学級）

- ① 教職員の共通理解・共通行動に立った、日常の微かな変化も見逃さない組織的な指導体制の確立
- ② 日常の微かな変化を見逃さない観察や教育相談、事例研等を通じた児童理解の充実
- ③ **挨拶を中心に児童相互の心のふれあいの推進と明るい返事の徹底、自他の心を育て、いじめの未然防止・いじめ見逃しゼロ等の指導の推進**

評価基準方法	評価	〔徳ウ〕 生徒指導を充実させ、心の居場所をつくる学級経営に努めている。 【教職員アンケート】 達成率3.6以上
	評価	〔徳アイ〕 学校は、子ども同士の心のふれあいの推進と明るい挨拶・返事の徹底に努めている。 【保護者アンケート】 達成率3.2以上
	評価	〔徳ウ〕 学校は、さまざまな場面で思いやりの心が育つ指導に努めている。 【保護者アンケート】 達成率3.2以上

(6) 一人一人のニーズに応じた組織的な対応（特別支援教育コーディネーター・各学級）

- ① 自立と共生を基盤に、個々の教育的ニーズに応じた「個別の教育支援計画・個別の指導計画」、「児童生徒理解・教育支援シート」の作成と更新
- ② **家庭や関係機関と連携した組織的対応の確立と推進**

評価基準方法	評価	〔知ア〕 一人一人の実態に応じた「個別の教育支援計画・個別の指導計画」（困り感）、「児童生徒理解・教育支援シート」（不登校）を作成し、実際の支援と連動させることができている。 【教職員アンケート】 達成率4.0
	評価	〔知ア〕 一人一人の困り感等への共通理解と校内支援体制を確立するための研修を行っている。 【教職員アンケート】 達成率4.0

(7) よりよい生き方を目指すキャリア教育（教務部・生徒指導部・各学級）

- ① **子どものよさや可能性をのばすキャリア教育の充実と自己評価の工夫（「キャリア・パスポート」の活用）**
- ② 自らの役割や責任を果たし、集団の中で自己を生かす指導の工夫
- ③ 見学や体験活動、外部講師の活用等、生徒の望ましい勤労観や職業観を培う指導の充実

評価基準 方法	評価	〔徳ウ〕「キャリア・パスポート」を活用するなど自分のよさを振り返る活動を重視している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	〔徳ウ〕地域の教育資源や外部人材を活用し、自分の将来に対して夢や希望をもてる指導を充実させている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上

(8) 外国語によるコミュニケーション能力を育む国際理解教育（教務部・各学級）

- ① 異文化や外国語に興味をもち、生き生きと活動する指導計画の作成
- ② 「聞くこと」「話すこと」等を通して音声や表現に慣れ親しむ指導方法とALTの効果的な活用による授業改善の推進
- ③ **コミュニケーションを図ることへの興味・関心を高める指導方法の工夫**

評価基準 方法	評価	〔知イ〕外国語では、音声や表現に慣れ親しむ指導方法を工夫し、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育成する指導ができています。 【教職員アンケート】達成率3.2以上
------------	----	---

(9) 情報活用能力を育む情報教育（教務部・各学級）

- ① **コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用するためのメディア・リテラシーや情報モラル等を育成する学習活動の充実**
- ② 一人一台端末の「活用」から「利活用（端末持ち帰り）」の転換への対応
- ③ コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器、ICT機器などの教材・教具の適切な活用の充実
- ④ コンピュータの基本的な操作を確実に身に付けるための学習活動やプログラミング的思考を育む教育活動の充実

評価基準 方法	評価	〔徳ア〕メディア・リテラシーや情報モラル等の指導を適切に行っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	〔知アイ〕学習活動において、ICT機器を効果的に活用している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上

(10) 生命を尊び、自ら心身を鍛える健康教育（保体部・生徒指導部・各学級）

- ① 新体力テスト等の実施による運動能力・習慣の把握、家庭・地域との情報共有
- ② 全校で取り組む体力づくりなど、体力・運動能力の向上を図る取組の充実
- ③ **健康、運動、安全意識の高揚と危険回避能力の育成**
- ④ 食に対する正しい知識と望ましい食習慣を身に付ける食育指導の充実
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症等に対する正しい知識と実践的行動を身に付ける指導の充実

評価基準 方法	評価	〔体アウ〕運動の生活化、体力づくり活動などの取組を積極的に推進している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
	評価	〔知イウ〕健康安全意識の高揚と危険回避能力の育成など安全教育の充実を図っている。 【教職員アンケート】達成率4.0
	評価	〔体イウ〕学校は、生命を尊び、自ら心身を鍛える健康教育の推進に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上
	評価	〔体アイ〕学校は、新型コロナウイルス感染症等の正しい知識と実践的行動力を身に付ける指導に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上

(11) 地域の特質を生かした複式教育（教務部・各学級）

- ① 「わたり・ずらしを活かした学習の展開」「見通し・振り返りの充実」「発達段階に応じた学習リーダーの育成」「発達段階に応じたノート指導の工夫」「多様な発表方法の工夫」「ICTの効果的な活用」の徹底・充実
- ② **地域の資源や人材を活用し、地域と一体となった教育活動の計画と改善**
- ③ 旭川市小規模・複式教育研究連盟と連携した複式教育の充実

評価基準 方法	評価	〔知イ〕地域の教育資源や外部人材の活用を位置づけた特色ある単元の実践、検証と改善を継続している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上
------------	----	--

IV 本年度の学校経営の評価

《学校評価の全体計画》

学期	月	学校経営	校務分掌	学級経営		学校職員人事評価	自己評価	外部アンケート	学校関係者評価
		校長	教職員	教職員	児童	教職員	教職員	児童・保護者	学校運営協議会
1 学期	4	○学校経営方針・重点の提示	○学校経営方針・重点の理解 ○各分掌計画の確認	○学校経営方針・重点の理解		II 業績評価（前期） ・今期の具体的な目標 ・目標達成のための取組方法等 期首面談	○学校経営方針・重点の理解 ○学校だより、ホームページ等 参観日 学級懇談	○第1回学校運営協議会 ・学校経営方針・重点の理解	
	5			《前期》生活アンケート	II 業績評価（前期） ・今期の具体的な目標 ・目標達成のための取組方法等 期首面談				
	6	○1学期学校経営の反省	○1学期校務分掌の反省 ○2学期改善事項の整理	○1学期学級経営の反省 ○2学期改善事項の整理			参観日 学級懇談 中間評価の実施	○中間評価の分析・公表 ○2学期改善事項の整理	
	7			いじめ調査①					
2 学期	8	○2学期学校経営の方策	○改善事項に基づいた分掌運営	○改善事項に基づいた分掌運営		II 業績評価（前期） ・自己評価 II 業績評価（後期） ・今期の具体的な目標 ・目標達成のための取組方法等 期首面談 期末面談	○改善事項に基づいた学校経営等 参観日 学級懇談	○第2回学校運営協議会 ・学芸会参観 ・施設設備等の観察・意見交流 ・学校運営に関する意見交流	
	9			いじめ調査②					
	10	《前期》生活アンケート	II 業績評価（後期） ・今期の具体的な目標 ・目標達成のための取組方法等 期首面談 期末面談						
	11	○2学期学校経営の反省 OR6学校経営の反省	○2学期校務分掌の反省 ○3学期改善事項の整理	○2学期学級経営の反省 ○3学期改善事項の整理			参観日 学級懇談 学校評価の実施		○学校評価の分析・公表 OR6改善事項の整理
	12			いじめ調査③					
3 学期	1	○3学期学校経営の方策 OR6学校経営の構想の提示	○2学期校務分掌の反省 OR6校務分掌の反省 OR7校務分掌の計画	○改善事項に基づいた分掌運営		I 能力評価 ・自己評価 II 業績評価（後期） ・自己評価 期末面談	参観日 学級懇談	○第3回学校運営協議会 ・参観日参観 ・施設設備等の観察・意見交流 ・学校運営に関する意見交流 ・R6学校評価の結果についての評価	
	2			いじめ調査③					
	3				①学校関係者評価の結果を踏まえた改善策の見直し ②自己評価・学校関係者評価の結果と改善策を設置者に報告 ③自己評価・学校関係者評価の結果と改善策について、広く保護者・地域住民に公表 ④R7の目標設定や具体的取組に反映				
「令和7年度 学校経営計画」の策定									

評価項目（取組指標）		達成状況
(1) 地域とともにある学校づくり		
① 神居地区小中連携協議会や学校運営協議会を踏まえた取組を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
② 学校は、教育目標や教育の方針等を家庭や地域に伝えている。 【保護者アンケート】達成率3.6以上		
③ 学校は、保護者の願いに応えとともに、学校の様子を家庭や地域に伝えている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上		
(2) 全教職員の経営参画を図る組織マネジメント		
① 年度の重点教育目標達成に向け、学年・分掌で協働して校務を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
② 情報の共有化を図り、主体的に学校運営に参画している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
③ 学校運営協議会や保護者アンケートの結果を踏まえ、積極的に学校改善を進めている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
(3) 教育目標の具現化を目指すカリキュラム・マネジメント		
① P D C Aサイクルによる組織的・計画的に教育活動の改善・充実を図っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
② 不断の授業改革及び家庭学習の定着・充実等の取組を行っている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
③ 学校は、家庭と連携しながら、学習規律や基本的な学習習慣の定着に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上		
(4) 教師と児童との良好な信頼関係の構築及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級経営		
① 年度の重点教育目標を踏まえた学級経営案を立案し、実践を行っている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
② 学校の生活は楽しいですか。 【児童アンケート】達成率3.6以上		
(5) キャリアステージに応じて求められる資質を高める研修活動		
① 対話に基づく受講奨励に基づき、教員育成指標や本校の目指す教員像などで求められる教員の姿を目指して、資質能力の向上を図っている。【教職員アンケート】達成率3.6以上		
(6) 安全で潤いのある教育環境整備		
① 言語環境の整備、机上等の整理整頓、ユニバーサルデザインに基づく統一した掲示物の工夫、感染症対策につながる環境整備を十分に行っている。【教職員アンケート】達成率4.0		
② 安全点検が定期的に行われ、危険箇所・破損箇所などの対策が取られている。 【教職員アンケート】達成率4.0		
(7) 組織で取り組む危機管理		
① 教育公務員としての立場を自覚し、服務規律を厳正に保持している。 【教職員アンケート】達成率4.0		
② 学校の実態や状況、課題に応じた危機管理体制を確立し、各種避難・防災訓練を実施している。 【教職員アンケート】達成率4.0		
(8) 適切で効率的な運用を図る学校事務		
① 効果的な予算執行や諸帳簿等及び文書管理が適切である。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
(9) 学校の活性化を図る学校職員人事評価		
① 学校職員人事評価の具体的な目標及び目標達成のための取組方法等は、年度の重点目標との関連が図れている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
(10) 働き方改革（富沢小学校アクション・プラン）の推進		
① 富沢小学校アクション・プランの行動計画をもとにした具体的な効率的・効果的な働き方改革を推進している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		

2 「年度の重点指導方針」の評価

重点指導方針 【知】の自己評価

指導の重点との関わり

- (1) 主体的・対話的で深い学びによる確かな力を育む学習指導
- (4) 地域の特色や今日的課題を踏まえた総合的な学習の時間
- (6) 一人一人のニーズに応じた組織的な教育支援
- (8) 外国語によるコミュニケーション能力を育む国際理解教育
- (9) 情報活用能力を育む情報教育
- (11) 地域の特質を生かした複式教育

(○：達成 △：不十分)

指標	評価項目（成果指標・取組指標）			達成状況
	(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 学びに向かう力・人間性等	
成果指標	ア	学習内容を理解し、習得させることができたか。	【達成率3.6以上】	
	イ	課題を発見し、解決に向けて見通しと道筋を立てて考える力を身に付けさせることができたか。	【達成率3.6以上】	
	イ	情報を集め、活用し、発信する力を身に付けさせることができたか。	【達成率3.6以上】	
	ウ	なりたい自分に向かって最後まで努力する力を身に付けさせることができたか。	【達成率3.6以上】	
	ウ	日常生活で学んだことを生かそうとする力を身に付けさせることができたか。	【達成率3.6以上】	
取組指標	ウ	学習規律の徹底が図られている。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
	ア	子どもたちが自分の考えをもち、議論する対話的な学びがある授業を実現している。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
	ア	学校は、子どもたちが自分の考えをもち、主体的に学ぶ教育活動に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.6以上		
	イ	「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のプロセスを通して、本校で設定している資質・能力が高まっている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
	ウ	学校は、自然体験など、地域の特色を生かした教育活動に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.6以上		
	ア	一人一人の実態に応じた「個別の教育支援計画・個別の指導計画」（困り感）、「児童生徒理解・教育支援シート」（不登校）を作成し、実際の支援と連動させることができている。 【教職員アンケート】達成率4.0		
	ア	一人一人の困り感等への共通理解と校内支援体制を確立するための研修を行っている。 【教職員アンケート】達成率4.0		
	ウ	外国語では、音声や表現に慣れ親しむ指導方法を工夫し、コミュニケーションの基礎となる資質・能力を育成する指導ができている。 【教職員アンケート】達成率3.2以上		
	ア	学習活動において、ICT機器を効果的に活用している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
	イ	健康安全意识の高揚と危険回避能力の育成など安全教育の充実を図っている。 【教職員アンケート】達成率4.0		
	イ	地域の教育資源や外部人材の活用を位置づけた特色ある単元の実践、検証と改善を継続している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		

重点指導方針 【知】の学校関係者評価

評価項目	評価内容	評価
自己評価の適切さ	A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A：十分な効果が期待できる B：ある程度の効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：改善を要する	
【学校関係者の意見等】		

重点指導方針 【徳】の自己評価

指導の重点との関わり

- (2) 豊かな心を育む道徳教育
- (3) 個と集団のよさを実感する特別活動
- (5) 自己をよりよく導く生徒指導
- (7) よりよい生き方を目指すキャリア教育

(○：達成 △：不十分)

指標	評価項目（成果指標・取組指標）			達成状況
	(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 学びに向かう力・人間性等	
成果指標	ア	物事は様々な見方ができることを理解し、習得させることができたか。 【達成率3.6以上】		
	イ	自分のことを知り、様々な角度から物事を考える力を身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
	イ	多様な価値観を認め、他者対話・交流する力を身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
	ウ	いろいろな価値観を認め、他者を大切にすることを身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
	ウ	相手のよさがわかり、集団の中で、自分のよさを発揮する力を身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
取組指標	ア	問題解決的で自分事として考える「特別の教科 道徳」の授業が行われている。 【教職員アンケート】 達成率3.2以上		
	イ	いじめアンケートで「いやな思いをしたことがある」と回答した児童の解消 【児童アンケート・聞き取り・解消】 達成率100%		
	ウ	いじめアンケートで「いじめは許されない」と回答 【児童アンケート】 達成率100%		
	イ	自分のよいところがわかりますか。 【児童アンケート】 達成率3.6以上		
	イ	仲間と協力して取り組む特別活動の実践を工夫している。 【教職員アンケート】 達成率3.2以上		
	ウ	友だちや他の学年の人と活動することが楽しいですか。 【児童アンケート】 達成率3.2以上		
	ウ	生徒指導を充実させ、心の居場所をつくる学級経営に努めている。 【教職員アンケート】 達成率3.6以上		
	ア	学校は、子ども同士の心のふれあいの推進と明るい挨拶・返事の徹底に努めている。 【保護者アンケート】 達成率3.2以上		
	ウ	学校は、さまざまな場面で思いやりの心が育つ指導に努めている。 【保護者アンケート】 達成率3.2以上		
	ア	メディア・リテラシーや情報モラル等の指導を適切に行っている。 【教職員アンケート】 達成率3.6以上		
	ウ	「キャリア・パスポート」を活用するなど自分のよさを振り返る活動を重視している。 【教職員アンケート】 達成率3.6以上		
	ウ	地域の教育資源や外部人材を活用し、自分の将来に対して夢や希望をもてる指導を充実させている。 【教職員アンケート】 達成率3.6以上		

重点指導方針 【徳】の学校関係者評価

評価項目	評価内容	評価
自己評価の適切さ	A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A：十分な効果が期待できる B：ある程度の効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：改善を要する	
【学校関係者の意見等】		

重点指導方針 【体】の自己評価

指導の重点との関わり

(10) 生命を尊び、自ら心身を鍛える健康教育

(○：達成 △：不十分)

指標	評価項目（成果指標・取組指標）			達成状況
	(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 学びに向かう力・人間性等	
成果指標	ア	健康・安全に過ごすために必要なことを理解し、習得させることができたか。 【達成率3.6以上】		
	ア	基本的な運動の体の動かし方を理解・習得し、実践させることができたか。 【達成率3.2以上】		
	イ	健康・安全・運動に関する課題を見付け、生活の中で解決する力を身に付けさせることができたか。【達成率3.6以上】		
	ウ	健康・安全に生活するために具体的に取組もうとする力を身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
	ウ	運動に親しみ体力を向上させようとする力を身に付けさせることができたか。 【達成率3.6以上】		
取組指標	ア ウ	運動の生活化、体力づくり活動などの取組を積極的に推進している。 【教職員アンケート】達成率3.6以上		
	イ ウ	健康安全意識の高揚と危険回避能力の育成など安全教育の充実を図っている。 【教職員アンケート】達成率4.0		
	イ ウ	学校は、生命を尊び、自ら心身を鍛える健康教育の推進に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上		
	ア イ	学校は、新型コロナウイルス感染症等の正しい知識と実践的行動力を身に付ける指導に努めている。 【保護者アンケート】達成率3.2以上		

重点指導方針 【体】の学校関係者評価

評価項目	評価内容	評価
自己評価の適切さ	A：適切な評価である B：ほぼ適切な評価である C：やや不適切な評価である D：不適切な評価である	
改善に向けた取組の適切さ	A：十分な効果が期待できる B：ある程度の効果が期待できる C：あまり効果が期待できない D：改善を要する	
【学校関係者の意見等】		